

平成 28 年度 学校法人 三幸学園 札幌ブライダル専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 本間 正道

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 中村 宗人

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、ブライダル分野の学校として「最幸の結婚式を通じて、日本をそして世界を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、ブライダル分野として「最幸の結婚式を創り上げることを通じて、新郎・新婦だけでなく、その家族、その人生も幸せにできるNo.1のプランナー・コーディネーター」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

「退学者数の減少」

- ・担任指導者の設置
- ・全ての教員が社会人としての行動習慣、思考習慣を身につけられるよう「成功の法則」という授業に参加
- ・4月～5月、10月～11月：クラス全員との面談期間
- ・長期休暇前には、長期休暇の過ごし方の留意点に関して発信することを徹底する
- ・妊娠での退学者を無くせるよう、札幌市保健センターの資料を用いて新入生全員に性教育を実施
- ・入学者対象の新入生保護者会の参加率の向上 昨年:65.6% 今年:70.5%

<参照>

- ・退学者数 28年度目標：1年次 7%未満、2年次 2%未満 → 実績 1年次 8.7%、2年次 0.8%
(1年生の退学率が課題である。)
- ・28年度卒業生皆勤・精勤率:54.8%(27年度:平成 62.7%)
(2年生の皆勤・精勤率が課題である。)

② 学校関係者評価委員会コメント

- ・退学者数が低いことは良いことなので、引き続き対策を継続して欲しい。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

- ・理念や人材育成像について、教職員間での周知はできているが、保護者の方への周知がまだ弱い
- ・人材育成像に沿った人材を育成するためには、職員自身が育成像に見合った人柄、能力を身につけている必要があるが、理解しながらも行動に移せる段階は今後の課題である。

② 今後の改善方策

- ・生徒に対して：各クラス教室に教育理念及び目指す人物像をポスターにして掲示する
保護者の方に対して：保護者会への参加を義務化し、全入学者の保護者に理念や人物像を伝える
- ・全ての職員に対し、副校長、ないし経験者が定期的な OFF-JT を継続していく。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・卒業生の立場からは、保護者が遠距離だったため、教育理念までしっかり理解をしていたかは定かではないが、遠距離の保護者にも担任からの連絡があったために安心感があった。
- ・企業の立場からは、新卒採用試験の面接の際にも生徒（受験者）の口から三幸学園の教育理念が出てくるほどなので、十分に浸透していると感じる。卒業生の社内評価も高い。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	3
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	3
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
人事、給与に関する制度は整備されているか	3
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	3
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

① 課題

WEB 掲示板を運用したが、浸透しきれなかった。

② 今後の改善方策

WEB 掲示板の存在について周知し、徹底して情報を UP していく事で学生への浸透を図る。

③ 特記事項

教職員にも「WEB 掲示板を活用した情報伝達」を徹底するよう継続して発信していく。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・学校として、理念が教員に浸透しており、組織体制がしっかり整備されているという印象を受けている。そのため、企業として迎え入れる業界側のコンプライアンスの遵守、徹底が課題として挙げられる。プライダル業界も今後、特に労働時間に関しては注力していく。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	3
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題

- ・カリキュラム、シラバスは整備されつつあるが、全ての授業に対応できていないことにより、「生徒にどうなって欲しいか」という到達点は先生によって解釈がばらばらになる可能性がある。
- ・教務指導力、校務分掌実行力ともに職員の中で、得手、不得手ははっきりと分かれてしまっている。

② 今後の改善方策

- ・シラバスを改善し、全ての教科の到達点を明確にする。(30 年度より完全導入に向けてシラバス改善を実施)
- ・全ての職員に OFF-JT を実施し、正しいあり方、考え方の習得を促し、しっかり伝わっていくシステムと人材を育成する。

③ 特記事項

適材適所や、長所進展法は社歴が浅い職員にこそ適用するものであり、社歴を重ねた経験者に得手、不得手があると、相談を行う後輩が正しい考え方、あり方を学べない

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・卒業生としては、企業インターンシップの経験が大きく役立っている。
- ・礼儀マナーはしっかりできているが、従順すぎる印象がある。(マニュアル通りで応用がきかない)
- ・行動の指導ではなく、目的を理解して業務にあたる指導が課題。その場での対応を考える力が課題。
- ・ビジネスマナー(言葉遣い、働く場にあった身だしなみ、ルールを守るなど)は現場に対応できる指導が必要。
- ・自分と異なる人(年代、性別、立場)とのコミュニケーションを多く設ける工夫があると良い。

(4)学修成果

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	2

① 課題

- ・上記対策を図ってはいるが、結果に対する目標を高く設定し成し遂げるにはもっと練り込んでいく必要がある。
- ・就職先の質は年々向上傾向だが、もっともっと生徒が納得いく就職活動にしていけるよう指導を行っていく。

② 今後の改善方策

- ・入学前に行う保護者会の出席率を向上する必要がある。
- ・卒業後の生徒の動向が把握できるような仕組みを作る必要がある。

③ 特記事項

平成 26 年度に WEB 上に卒業生同窓会サイトを立ち上げ、学校、卒業生が情報交換できるような仕組みを作ったが、まだ活用が十分ではない。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・卒業生としては、1年次より履歴書指導をしていただけたおかげで就職活動もスムーズに進められた。
- ・卒業生の転職支援ができる同窓会サイトの存在は、企業としてもありがたい。

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	2
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	2
中途退学者への支援体制はあるか	2
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

- ・学生の生活環境への支援は、学費と業界のノウハウの習得双方の目的で促す有給企業インターンシップ(アルバイト)の斡旋以外は未実施。

② 今後の改善方策

- ・卒業生に対しても、既卒求人タイムリーに発信できるシステムを構築していく。
(平成 28 年度は、卒業生同窓会サイト上に卒業生対象の求人を掲載できるように工夫したが、まだ周知されていないため、継続して卒業生に周知していく。)
- ・生活習慣や学費面以外の家庭環境に関する相談は、生徒の表情や時期に合わせた面談を実施する。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・保護者に頻繁に連絡をくれる体制は、保護者が非常に安心できたため、今後も是非継続してほしい。
- ・卒業生の転職支援ができる同窓会サイトの存在は、企業としてもありがたい。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

① 課題

防災に関する設備は充実しているが、体制としては十分ではない。

② 今後の改善方策

防火・防災管理者より全職員に向けて会議の場を通じ、研修を実施する。

③ 特記事項

平成 26 年度よりウェディングプランナー科は有給企業インターンシップ制度がスタートし、産学連携が強化されている。ブライダルコーディネーター科は 29 年度後期よりスタート予定。

施設実習については、ウェディングプランナー科・ブライダルコーディネーター科共に、全員が実施。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・施設、設備は現場に必要な技能を学ぶに十分だと感じる。
- ・業界へのアルバイト斡旋率が高いという印象があるため、今後も是非継続してほしい。
- ・防災については全校登校日だけでなく、普段の HR から発信していく必要もある。

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

- ・なし

② 今後の改善方策

- ・なし

③ 特記事項

・AO 入学制度を利用して、早期に進路決定を行った高校生に対し、入学前に業界理解を深められる学習を合計 6 日程用意している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・特に問題なし。
- ・今後も業界に有益な人材を送り出せるよう入学者確保に努めてほしい。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

中長期事業計画は2012年に策定したが、当該計画は前倒しで終了しているため、今年度に更なる中長期計画を策定する必要性がある。

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

ホームページ上の公開については抜粋版が公開となっているが、今後は事業報告などの詳細な情報の公開が必要。

② 今後の改善方法

【中期計画】

今年度の新中期計画を策定する予定である。

【財務情報の公開】

今年度よりホームページ上の法人の事業報告書を公開する予定である。なお、当該報告書には財務情報にかかる詳細データを掲載する事となっている。

③ 特記事項

なし

【委員コメント】

- ・特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	3

① 課題

・特になし

② 今後の改善方策

・特になし

③ 特記事項

・一昨年度から学校関係者評価委員会を執り行うことで、業界の方からの意見に基づき改善を実施中である。

④ 学校関係者評価委員会コメント

・今回、学校関係者評価委員会を実施したが、大変有意義であったため、今後もこのように学校の情報を公開し、第三者の評価を得ることは、内向きな体制に気付く上で活用できる為、より良い学校づくりが行えるのではないかと期待している。

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	1

① 課題

・地域に対する公開講座・教育訓練の受託は未実施。

② 今後の改善方策

・地域貢献については大通付近に面していることもあり、ボランティアを通じて、または大通イベントを通じて行っているため、継続していく。

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・本物挙式、披露宴のプロデュースの実施や、在校生が老人ホーム、児童会館にメイク施術をしに行くという活動はとても有意義である。今後も是非継続して欲しい。

(11)国際交流(必要に応じて)

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	1
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	1
学内で適切な体制が整備されているか	3

① 課題

・工業系や医療、介護、美容における本国に持ち帰れる技術職ではないぶん、外国人留学生からの入学希望がほぼない。

② 今後の改善方策

・行政機関とも連携し、フォトウェディングで北海道の魅力を訴求していく

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・日本のウェディングのブランド力を向上できれば、アジア圏からの留学者は見込めるのではないかと。観光立国として北海道が担う意義は重要であるため、企業としても協力したい。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

平成 28 年度のスタート時に以下の 5 点を掲げ、学校運営を行ってきた。

- ① 皆勤・精勤率の向上
- ② 退学者数の減少
- ③ 資格取得率
- ④ 進路決定率だけでなく、質の向上
- ⑤ 卒業生アンケートの満足度の向上

今回の自己評価を通じて、より良い学校づくりの為にまだまだ改善の余地があることがわかり、いただいた課題を踏まえて、29 年度に改善していく。